



WITH ALSの武藤将胤代表

## 若年ALS患者向け 電動車椅子レンタル

一般社団法人WITH ALSは、パーソナルモビリティ「WHILL」(ウィール)のレンタルサービス開始に向け準備を進めている。対象は、介護保険が適用されない「40歳未満」のALS(筋萎縮性側索硬化症)患者だ。7.5センチ程度の段差も乗り越えられるほどの走破性に富んだウィールを、運搬費などの最低限の経費負担だけで貸出可能なサービスを目指す。

(寺町 幸枝)

WITH ALSの武藤将胤代表は、3年ほど前に20代でALSを発症した。徐々に脚の状態も悪くなってきた頃、主治医から車椅子の導入を勧められたという。

「自分がいざ車椅子を取得しようとした時、突然40歳未満は『介護保健適用外』という壁にぶつかかった」と語る。日本ALS協会の調べによれば、ALS患者は全国で9434人存在する(2015年度)。そのうち、40歳未満の患者は144人だ。

WITH ALSは3月、クラウドファンディングで資金調達し、目標金額300万円を達成した。ウィール3台分の費用で、15〜30人に対してレンタルシェアが提供でき、全体の1〜2割のサポートが可能となる。

### カッコ良い新たな乗り物

武藤代表は車椅子の導入を検討し始めた頃、自分が前向きな気持ちで乗りたい、と思



デザインと走破性に優れたウィール

える車椅子に出合えなかったという。「車椅子に障がい者の乗り物、という印象が強かったため、それを見ても抵抗感があるものばかりだった」と当時を振り返る。

「障がい者も健常者も垣根を越えてカッコ良く乗れる新たな乗り物を作れないか」と考え、そのリサーチをする中で出合ったのがウィールだった。

今までの電動車椅子では転倒の恐れがあった、7.5センチ程度の段差も乗り越えることができる走破性は、ウィールの魅力の一つだ。障がい理由に、

「100以上のコンビニに行くことさえあきらめてしまう」というALS患者にとって、自由な行動を叶えるツールとしてのウィールの存在は、大きな可能性を秘めている。

ウィールは、シリコンパレーと横浜に拠点を構えるウィール社が開発した。2011年にプロトタイプを東京モーターショーに出展し、大きな反響を得て、その後「2015年グッドデザイン大賞」をはじめ、製品のデザイン、機能、コンセプトなど総合的に評価され、数々の賞を受賞している。

ウィール社自身が40歳以上のALS患者向けにレンタルシェアの仕組みを持っているため、WITH ALSは「40歳未満のALS患者限定」で、事業展開を予定している。

武藤代表は「クラウドファンディングを通じて、共感する人たちに様々なメッセージを伝える機会になれば」と期待を込めた。